

景観の形成

里山の特徴的な景観は、田畑や雑木林、集落などが混在していることに加え、そこに住む人々の生活感が相まって、四季折々の様相をみせてくれるところにあります。
そこには、私たちに、どこか落ち着く懐かしい風景が広がります。



水・土壌・大気環境の保全

里山を構成する雑木林やため池は、洪水を防いだり、湯水時に備えて水を蓄えたり、水質を浄化する働きがあります。
また、雑木林には土砂の崩壊や流失を防いだり、光合成によって二酸化炭素を吸収したりするなど大気を浄化する働きもあります。

生物多様性

野生の動植物は、奥山などの原生的な自然のなかで生きていくものもあれば、人の手が加わった環境でしか生きていけないものもあります。環境省の調査では、メダカ、ゲンゴロウなど絶滅危惧種の約5割が、里山で生息する生きものとされています。

田畑を耕し、雑木林の手入れをすることは、限られた空間に様々な遷移*段階の植物群落を生み出します。この植物群落の多様性は、水田やため池などの水条件と相まって、多くの動植物が生息できる環境をつくりだしています。

※遷移…クヌギ・ナラなどの雑木林は、木が大きくなり過ぎると、林の中が薄暗くなり、シイやカシなど日光をあまり必要としない幼木だけが育つようになります。時間の経過とともに雑木林はクヌギなどの落葉広葉樹からシイなどの常緑広葉樹に変化していきます。これを遷移といいます。



自然とのふれあいの場

身近な自然が少ない都市住民に、様々な生きものと接する機会や、農林業体験などの機会を提供してくれるのも里山の特徴です。また、子どもたちが健全な感性を育むうえで、動植物や季節の移ろいを感じさせる風景にふれることは大切です。
里山はそういった自然体験や環境学習、情操教育の場を提供してくれます。



生活文化の伝承

里山は、地域の文化を伝承する炭焼きやしめ縄作り、また、地域の食材が織りなす多様な食文化などをささえています。
地域色豊かな豊稔祈願の祭事なども、季節の風物詩として、私たちの情感を潤してくれる里山の文化のひとつです。

コラム 2 子どもたちと自然体験

小鳥のさえずり、若葉の香り、風に踊る木漏れ日など、自然のなかには人間の五感をくすぐる刺激であふれています。
人間の脳がもっとも発達する幼児期に外界刺激を五感で敏感に受け取ることは、豊かな感性を育むうえで大切なプロセスといわれています。しかし、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化した今日では、昔のように、気軽に自然のなかで遊ぶ機会をもつことは難しくなっています。
興味深い現象として、「赤とんぼは

好きですか」との問いに50歳以上では8割以上が「好きだ」と答えたのに対し、20歳代では8割が「何とも思わない」と答えています。自然体験の差が、生きものに対する情感の差に現れているかもしれません。
大人の価値観の中で生きていかなければならない子どもたちですが、少なくとも子どもたちが自分で赤とんぼやカブトムシを捕らえることができる、そんな自然を守り残すことは、今の私たち大人の責務ではないでしょうか。

